

平成22年 6月17日現在

研究種目：基盤研究 (C)
研究期間：2007～2009
課題番号：19510287
研究課題名 (和文) 女性技術者のキャリア形成過程に関する実証的研究 —高専の教育モデルの構築をめざして
研究課題名 (英文) Demonstrative research on the career building process of female engineers to construct new education model for Kosen
研究代表者 内田 由理子 (UCHIDA YURIKO) 香川高等専門学校・一般教育科・准教授 研究者番号：90259945

研究成果の概要 (和文)：本研究では、57名の女性技術者のヒアリング調査から、多様な業界の多岐にわたる女性技術者のキャリア形成過程を明らかにした。また、その成果を基に、ジェンダーの視点から高専教育への提言を行った。

研究成果の概要 (英文)：In this research 57 female engineers were interviewed. As a result career development process were clarified in various sectors, and some proposals for education at Kosen were made from a viewpoint of gender studies.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：女性技術者、キャリア形成、高専女子卒業生、高専教育

1. 研究開始当初の背景

男女共同参画社会への実現が求められ、大量の団塊世代の退職をひかえ、また JABEE (日本技術者教育認定機構) の認定資格制度導入がなされる今日、今後ますます男女を問わず能力主義による採用が技術職現場でも増加すると予測できる。一方高専教育は、工学教育、技術者教育、専攻科教育、JABEE (日本技術者教育認定機構) 対応の教育編成、創造教育、コミュニケーション能力の育成、一般

教育の再構築、地域連携等の視点でのみ論じられてきた。近年、高等専門学校でも女子学生の在籍数が増加傾向にありながら、ジェンダーの視点をもつ新たな高専教育への提言はこれまで明確に示されてこなかった。

そこで、内田を研究代表者とする研究チームは、平成15～17年度、科学研究費補助金基盤研究(C)(1)の採択を受け、「高専女子卒業生の労働に関する調査研究—技術職現場のジェンダー分析—」(課題番号15510231)

を遂行するに至った。この研究で、高専女子卒業生 998 名の就労状況、初職定着率の低さ、技術職としての再就職の困難さが明らかとなった。このような、マクロな視点から高専卒業生全体の就労状況把握を目指したこの研究成果をもとに、本研究は、質的アプローチをとり、よりミクロな視点から研究を行うものである。

2. 研究の目的

本研究は、女性技術者約 50 名に対するヒアリング調査を実施し、女性技術者のキャリア形成過程を企業側の雇用体系も含めて明らかにし、次なる女性技術者を輩出する高等専門学校における教育モデルを構築することを主要目的とする。

調査対象者は、調査協力の意思をもち、現就労者、かつ技術職で現職場での勤務年数が 10 年以上の者を抽出している。調査では、女性技術者の業種、職種、業務内容、就労環境、雇用体系、職場での活躍状況とその阻害要因、キャリアデザイン、ライフデザイン等を明らかにする。これらの調査に考察を加え、工学系女子学生へのロールモデル数十人を現場で活躍する姿とともに明示し、工学教育・技術者教育をはじめキャリア教育を含めた 5 年間一貫教育を特質とする高専教育のあり方をジェンダーの視点から再構築し、提言を行う。

3. 研究の方法

本研究は、以下の手法を用いた学術調査及び研究を行うものである。

調査目標：技術職現場における女性技術者の就労に関する資料の整備と、問題の発見、原因の究明を目標とする。

調査方法：戸別訪問によるヒアリング調査を実施した。

調査対象：高専卒業生の女性技術者約 50 名を調査対象としている。

調査仮説：予備調査及び共同研究者・研究協力者の知見に基づき、複数の具体的調査仮説を構成した。

調査内容：出身学科や年齢、婚姻形態等、研究課題に必要な具体的属性を把握し、技術職現場の女性技術者としてのキャリア形成過程を中心に、就労状況とともに、キャリアパス制度など起業の雇用体制の実情を調査した。また、高専教育が調査対象者のキャリアにいかなる影響を与えたのか、否か、高専教育、特にキャリア教育、進路指導への要望等が抽出できるよう調査を行った。

4. 研究成果

本研究成果は、女性技術者 57 名に対するヒアリング調査を実施し、女性技術者のキャリア形成過程を明らかにし、高等専門学校のあり方をジェン

ダーの視点から提言したことにある。主な成果内容は以下である。

(1) 業界サブカルチャー：業界の背景にあるサブカルチャーを明らかにし、女性技術者の就労状況及びその特徴を、業界ごとに明らかにした。

①機械関連業界

- 1 業界の特徴
- 2 女性の就労状況
- 3 職場における性差別

②電気電子業界

- 1 業界の特徴
- 2 女性の就労状況
 - ・雇用環境
 - ・性差別の状況
 - ・就労継続の困難さ
 - ・高学歴と就労継続性
 - ・資格取得と雇用機会
- 3 各分野での就労状況
 - ・エレクトロニクス系企業
 - ・強電・インフラ系企業
 - ・通信系企業
 - ・サービスエンジニア系企業
 - ・自動車製造系企業
 - ・食品系企業
 - ・化学系企業
 - ・個人経営企業

③土木建築業界

- 1 業界の特徴
- 2 女性の就労状況
 - ・資格の役割
 - ・独立 or サラリーマン or 寿退社
 - ・人脈の重要性
- 3 職場における性差別

④化学・バイオ業界

- 1 業界の特徴
- 2 女性の就労状況
- 3 職場における性差別
- 4 他業種への展開

⑤情報通信業界

- 1 業界の特徴
- 2 情報業界と通信業界との違い
- 3 女性の就労状況
- 4 就業上の性差別
- 5 転職や離職、起業

⑥海運業界

- 1 業界の特徴
- 2 女性の就労状況
- 3 その他の性差別

(2) 世代間による就労の特徴：世代という分析軸から、各々の世代の背景となる時代の特徴、その就労状況を明らかにした。

①三つの世代—それぞれの世代背景

- 1 フロンティアたち
- 2 バブル経済とコンピュータ社会がもたらしたもの
- 3 高専卒もロストジェネレーションなの

- か
- ②転職と世代の関係
- 1 データからみる全体の傾向
 - 2 転職の理由と世代の傾向
 - ・転職は家族の都合で ー第一世代
 - ・技術があれば転職にも困らない働き続ける 40代 ー第二世代
 - ・これから転職組の戦略 ー第三世代
- ③職階と世代の関係
- 1 データからみる全体の傾向
 - 2 職階と就業年数の関係
 - 3 キャリア志向と世代の関係
 - 4 第三世代の職階の推移
- ④職種と世代の関係
- 1 データからみる全体の傾向
 - 2 開発設計の割合が多い理由
 - 3 第三世代の職種
 - 4 ライフステージの変化と職種
- (3)地域間の就労：地域という分析軸から、都市部と地元の特徴、その就労状況を明らかにした。
- ①育児支援
 - ②地元志向
 - ③地元の職場環境
 - ④人権問題に関する格差と価値の違い
- (4)就労を継続する主体的要因：就労継続の主体的要因明らかにをした。
- ①自己啓発（資質向上意欲）
 - ②自己主張（意思伝達能力）
 - 1 職場において
 - 2 家庭において
 - 3 職場と家庭の両立
 - ③人間関係づくり力（職場の良好な人間関係）
 - ④仕事が好き（働くことは当たり前）
 - ⑤高専教育で培った資質
- (5)就労継続を可能とするキャリア形成：就労を継続するキャリア形成のカギは何か、その特徴が顕著にみられる業界をとりあげながら明らかにした。
- ①就労継続が困難な諸事象
 - ②資格が活きるキャリア形成
 - 1 土木建築業界 ー資格が肩書
 - 2 化学業界 ー資格でキャリアを切り拓く
 - ③語学/英語
 - 1 外資系企業
 - 2 取引企業・顧客、海外事業所
 - ④独立・起業 ーワーク・ライフ・バランス
 - 1 建築業界
 - 2 IT 業界
 - ⑤フレキシブルなキャリア選択
 - 1 とりあえず辞めないという選択
 - 2 子育て期間が終わるまで待つ
 - 3 高い専門性・技術をベースにキャリア開拓

- ⑥女性技術者が要望する働きやすい職場環境
- (6)両立、ワーク・ライフ・バランス：どのような両立生活の成功モデルがあるのか、どのような障壁に阻まれているのか、家庭や子どもをもつ女性技術者に焦点を絞り、そのキャリア形成を明らかにした。
- ①現状の分析
 - 1 家事・子育て
 - 2 就労継続を可能にしたもの
 - ・継続が当然
 - ・転職、業務内容を変更
 - ・家族、父母・義父母のサポート
 - ・自分自身で行動を起こした
 - ・会社の就労規定の充実
 - ・会社の上司・同僚の理解
 - ②介護問題
 - ③両立、ワーク・ライフ・バランスに関する就労分野、学歴での差異
 - 1 同業種での就労者の特徴
 - 2 異業種での就労者の特徴
 - 3 進学後の就労者の特徴
 - 4 両立の成否を決める要素
- (7)転職の実情：転職の実情について、転職理由、転職の背景、女性技術者たちがキャリアパスにおいて転職をどうとらえているのか、明らかにした。
- ①転職率の男女別、年代別、出身学科別特徴
 - ②同業種への転職
 - 1 転職への動機づけが高いケース
 - 2 転職への動機づけが低いケース
 - ・外的要因による転職
 - ・主体的要因による転職
 - ③異業種への転職
 - 1 転職への動機づけが高いケース
 - 2 転職への動機づけが低いケース
- (8)アスピレーション：アスピレーションという分析軸から、女性技術者のアスピレーション様態の類型化を行い、高専教育と職業アスピレーションに関する考察を行った。
- ①アスピレーションとジェンダー
 - ②アスピレーション機能の類型
 - ③高専教育と職業アスピレーション
- (9)女性技術者が高専教育に求めること：女性技術者のキャリア形成の分析を基軸に、高専教育と大学教育、教科教育、キャリア教育に対して考察を加え、高専における教育モデル構築に向けた提言をジェンダーの視点から行った。
- ①高専出身者と大学出身者との比較
 - ②教科教育への提言
 - 1 一般教養に言及するもの
 - 2 専門教育内容に言及するもの
 - 3 教育の工夫
 - 4 学生への激励
 - ③キャリア教育への提言

- 1 対人能力、マナー、就労自覚、向上心
- 2 社会構造を勉強
- 3 育児等の情報提供
- ④女性技術者第四世代の育成
 - 1 教科教育
 - 2 キャリア教育

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ①内田由理子、高専女子卒業生の就労状況、科学技術社会論研究、日本科学技術社会論学会誌、査読有、第7号、2009、pp34-44

[学会発表] (計5件)

- ①内田由理子、女性技術者のキャリア形成過程—就労継続と業界別特性に着目して—、2009年度日本女性学会大会、2009年6月27日、お茶の水女子大学
- ②内田由理子、高専卒業生の調査研究—女性技術者の就労継続可能な職場とは—、日本高専学会第15回年会、2009年8月30日、豊橋技術科学大学

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

内田 由理子 (UCHIDA YURIKO)
香川高等専門学校・一般教育科・准教授
研究者番号：90259945

(2) 研究分担者

浦家淳博 (URAIE ATSUHIRO)
釧路工業高等専門学校・一般教科・教授
研究者番号：30193957
大槻香子 (OTSUKI YOSHIKO)
釧路工業高等専門学校・建築学科・助手
研究者番号：20240426
太田智加子 (OTA CHIKAKO)
石川工業高等専門学校・一般教科・准教授
研究者番号：00282020
中谷敬子 (NAKATANI KEIKO)
大阪府立工業高等専門学校・総合工学システム学科・准教授
研究者番号：60295714
角谷英則 (KADOYA HIDENORI)
津山工業高等専門学校・一般教科・講師
研究者番号：90342550
三橋和彦 (MITSUHASHI KAZUHIKO)
佐世保工業高等専門学校・電気電子工学科・准教授
研究者番号：60311114

(3) 連携研究者

()

研究者番号：